

第10回ホスピタル・プレイ・スペシャリスト  
国際シンポジウム&ワークショップ 実施報告  
健やかに成長し続ける子供たちを支えるホスピタル・プレイ  
～病院と地域の垣根を低くするための連携～

1. 全体概要

(1) 開催日時

平成30年2月10日（土）10時00分～17時00分

(2) 開催場所

静岡県立大学短期大学部

講堂及び101講義室、102講義室、104講義室、105講義室

(3) 開催概要

本学におけるHPS養成事業を振り返り、現在の到達地点を確認するための場として国際シンポジウム&ワークショップが開催され、全国各地より163名の参加があった。国際シンポジウムでは、英国ドーゼット州教育委員会委員のLydia氏による基調講演に始まり、重度疾病・重度障がい児家族のレスパイトケアに取り組む団体代表、病気の子どもの学習・復学支援に取り組む団体職員、精神障害の親を持つ子ども・親子支援に取り組む団体代表による講演を行い、日本におけるホスピタル・プレイについて振り返るとともに、今後の遊び支援のあり方について再考するきっかけとなった。

また、午後から行われたHPSによる参加型ワークショップでは、日本と海外におけるホスピタル・プレイの活動を紹介するとともに、子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学ぶ機会となった。

2. 当日プログラムの概要

(1) 10:00～10:05 開会挨拶

鬼頭 宏（静岡県立大学短期大学部 学長）

本シンポジウムの開催に際し、講演者・参加者ならびにご支援とご協力をいただいている皆様に謝辞を述べるとともに本学でのHPS養成教育事業の経過および本シンポジウムのプログラムについての話しがあり、開会挨拶とした。

(2) 10:05～10:15

松平 千佳（静岡県立大学短期大学部 准教授・HPS養成事業責任者）

本事業に対してご支援とご協力をいただいている各位に対する謝辞があった。また、

「国際シンポジウムを通して 10 年の歴史を振り返る」と題しホスピタル・プレイの歩みについて、本学および NPO 法人ホスピタル・プレイ協会としての活動報告と今後の展望について述べた。

(3) 10 : 15～11 : 00 基調講演

Elizabeth Lydia (英国ドーセット州教育委員会 Advisory Teacher)

本講演では、「感覚障害」を抱える子どもたちの支援方法について、英国ドーセット州にて実践および指導を行うリディア氏が、もっともか弱い子どもたちの尊厳を守るかかわりと方法について、自らの経験を交えながら述べた。

(4) 11 : 00～11 : 20 活動紹介と提案 1

宮地浩太 (NPO 法人 親子はねやすめ・代表)

本講演では、重度疾病や重度障がい児家族のレスパイトケアを提供する NPO 法人親子はねやすめ代表の宮地氏が、その取り組みと活動の様子を紹介し、専門職でない者ができる支援のあり方と活動の展望について述べた。

(5) 11 : 20～11 : 40 活動紹介と提案 2

奥田修平 (NPO 法人 ポケットサポート・ICT プロデューサー)

本講演では、病気の子どもの学習と復学支援を行う NPO 法人ポケットサポートの奥田氏が、病気子どもたちに学習の機会を提供し支援する取り組みについて、その活動の様子を紹介し、子どもたちが教育を受ける機会の重要性について述べた。

(6) 11 : 40～12 : 00 活動紹介と提案 3

土田幸子 (親&子どものサポートを考える会・代表)

本講演では、精神障害の親を持つ子どもと親子支援の取り組みについて、親&子どものサポートを考える会代表の土田氏が、活動の内容を紹介するとともに、精神障害を抱える親自身ではなく子どもに視点をおいた支援活動の現状と課題について述べた。

(7) 12 : 00～12 : 10 ワークショップ案内

(8) 12 : 10～13 : 00 昼休み

(9) 13 : 00～16 : 35 HPS によるワークショップ「ホスピタル・プレイを学ぶ」5ブース

本学 HPS 養成講座は、現在まで 13 クールが実施されている。HPS によるホスピタル・プレイ活動を紹介しつつ、ワークショップを通じて、参加者は子どもにやさしい医療を実現するための活動を体験的に学んだ。

◆ ブース A (会場：講堂、担当：HPS 名古屋ブロック)

地域にいる子どもも、病院にいる子どもも、家族も医療者もみんなつながろう！『メディカルパズル@スマイルきょうだいプロジェクト』

・きょうだいの会の企画のなかから、きょうだいに「あなたが大切！」というメッセージを伝えることを大きな目的に含めた『メディカルパズル』を体験的に学んだ。

◆ ブース B (会場：101 教室、担当：HPS 静岡ブロック)

子どもの思いを知るための遊び支援 ～すごろく・塗り絵の取り組みを通して～

・入院児の思いを知るために、静岡県立こども病院、静岡済生会総合病院で実際に使用している「すごろく」や「塗り絵」を紹介し、参加者が塗り絵の効果を体験的に学んだ。

◆ ブース C (会場：102 教室、担当：HPS12 クール修了生ほか)

ホスピタル・プレイ・スペシャリストとしての挑戦 ～変化を起こすためのヒント～

・養成講座 12 クール修了生が、それぞれに抱えていた受講前の思いや現状を振り返り、受講中、受講後に職場でどのような取り組みをし、どのような成果や課題がみられたのかをポスターとして展示し、報告した。

◆ ブース D (会場：104 教室、担当：HPS 関東ブロック)

『子どもと医療をつなげるツール』

・子どもが「医療に対する思い」「知ってほしいこと」を主体的に発信することで子どもと医療をつなぎ、「自分自身」を表現できるツールを紹介し、参加者が製作を体験した。

◆ ブース E (会場：105 教室、担当：HPS 関西ブロック)

『シャボン玉アート ～病室からいいね♡』

・シャボン玉をふくことによる効果と、様々な発達段階にいる子どもが遊べる工夫を紹介し、参加者がシャボン玉アートを体験的に学んだ。

(10) 16:35～16:45 休憩・移動

(11) 16:45～17:00 まとめ・閉会挨拶

永倉みゆき (静岡県立大学短期大学部 学生部長)

永倉学生部長より、本日の講演内容についての感想と、本学における今後の養成教育事業について述べられ、閉会の挨拶とした。

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト

第10回国際シンポジウム&ワークショップ 当日の様子

開会挨拶



主催者挨拶



基調講演



NPO 法人

親子はねやすめ 宮地様



NPO 法人

ポケットサポート 奥田様



親&子どものサポートを

考える会 土田様



ワークショップの様子



主催：静岡県立大学短期大学部

NPO 法人 ホスピタル・プレイ協会 すべての子どもの遊びと支援を考える会

後援：静岡県 静岡市 静岡県重症心身障害児（者）を見守る会